

整形外科医に聞く

第三整形外科部長 **みね はやと**
峯 隼人



痛みのない、歩きやすい膝(ひざ)を目指して



膝は、肩・腰と並んで年齢とともに最も痛みが出やすい部位の1つです。大きなケガをしたことがない健康な方でも、加齢とともにひざはんげつばん膝半月板のすり切れや軟骨のすり減りが起こるため、中高年以降で膝の痛みが出るが多くなりますへんげいせいひざかんせつしょう(変形性膝関節症)。

変形性膝関節症が進行すると、軟骨はどんどんすり減ってしまい、そのうえ、かし下肢全体の変形(多くはオーO脚変形)も進行します。O脚が悪化すると、見た目の変化や歩き方の変化にとどまらず、膝の痛みも増悪するため、立つ、座る、歩くといった普通普通の生活への支障が大きくなるのです。

軽症の場合は、まずは保存的治療(運動療法、リハビリ、装具療法、関節内注射など)を行います。保存的治療で改善しない場合は、手術治療かんせつきょう(関節鏡手術や骨切り術)を行うことができます。

一方で、重度の変形があり、歩行に支障をきたしている場合は、じんこうひざかんせつちかんじゆつ人工膝関節置換術の適応となります。これは、人工の膝関節を入れて下肢をまっすぐに戻し、歩行時の痛みを和らげて歩きやすくするための手術です。日本では現在、年間約10万件の人工膝関節の手術が行われていますが、高齢者人口の増加に伴い、手術は今後ますます増えると予想されています。



ひと昔前の人工関節は長期耐久性に不安がありましたが、コンピュータ支援手術などの医療技術の進歩と人工関節自体の改良によって、以前よりも正確で安全な手術と、安定した長期成績を患者さんに提供できるようになっています。特に、当科では術後の痛みの軽減に力を入れており、各種鎮痛療法を効果的に取り入れることで、患者さんの苦痛をできるだけ少なくし、早期リハビリ、早期回復を目指しています。

膝の痛みの治療は、患者さん個々によって千差万別です。患者さんの状態やご希望にあわせて、最適な治療を目指しています。膝の痛みでお困りの方は、いつでもご相談ください。

発行：独立行政法人労働者健康安全機構 富山ろうさい病院 地域医療連携室

富山ろうさい病院だよりは、当院ホームページ(URL <https://www.toyamah.johas.go.jp/dayori/>)

にも掲載しています。

【お問い合わせ先】TEL(0765)-22-1280(病院代表)

E-mail chiiki2@toyamah.johas.go.jp



▶バックナンバーはこちらの

QRコードからも確認できます。